

授業科目 日本画特論

Specific Theory of the Japanese Stile Painting

担当 中村 賢次

日本画は大陸からの文化の影響を受けながら日本特有の気候風土によって独自の美術文化を形成してきた。絵画においては、その使用材料や絵画様式も時代の中で変化を遂げてきた。大陸の土性絵具や紙とは異なる日本の土性絵具、鉋物による岩絵具、墨そして和紙、絵絹の性質を原料産出から製造プロセスに至るまでを京都、奈良、岐阜を中心として日本画の材料を研究する。又、絵画様式においては特に日本絵画の装飾性を高めた尾形光琳、狩野永徳、近代絵画の礎をつくった円山応挙、竹内栖鳳の作品に焦点を当て、その精神と技法の関連性を考察することによって未来を志向する日本画を追求する。

授業科目 西洋画特論

Specific Theory of the Western Stile Painting

担当 有田 巧

ファン・アイク、ジョット、ルーベンス、レンブラント、また近代のセザンヌやピカソなど、時代を画した人々に限らず、古来画家たちは、巧みにマチエールや視覚的に複雑な効果を作品の中に生み出してきた。この科目では時代の異なる画家を2もしくは3作家選び、描かれたその作品の表現および技法・材料を研究する。技法・材料となれば古典技法に偏りがちだが、ここでは積極的に近・現代の作家も多く取り上げ、各時代のメチエを正しく認識すると共に、作家個人の歴史や時代背景なども関連付けて考察する。